

ひょうごの遺跡

平成10年9月25日発行
兵庫県教育委員会
埋蔵文化財調査事務所
神戸市兵庫区荒田町2-1-5
〒652 TEL 078-531-7011
-0032 FAX 078-531-7014

明石海峡大橋完成記念特集

— 神戸淡路鳴門自動車道建設にともなう埋蔵文化財調査の記録 —

つないちのみや
(津名一宮インターチェンジから明石海峡大橋間)

平成10年4月5日、神戸淡路鳴門自動車道は、「夢の架け橋」と呼ばれた世界最大の吊り橋「明石海峡大橋」の完成に伴い、津名一宮インターチェンジ以北が開通し、神戸・淡路・四国が一本の道で結ばれました。

この道路の建設については、昭和47年の分布調査を皮切りに、約25年もの長期にわたり、多くの埋蔵文化財の発見や調査が行われました。本号では、道路の完成と調査の終了とを記念して、埋蔵文化財調査事務所が調査した主な遺跡について紹介します。



佃遺跡から出土した縄文土器（津名郡東浦町）



神戸淡路鳴門自動車道建設に伴い発掘調査をした遺跡（津名一宮インターチェンジ以北）
 〈衛星データ所有：通商産業省／宇宙開発事業団 衛星データ配布：㈱リモート・センシング技術センター〉

西日本最大級の縄文遺跡

つくだ ちよせうら
 佃遺跡（津名郡東浦町）

佃遺跡は、神戸淡路鳴門自動車道の東浦インターチェンジランプウェイの建設に伴い、平成3・4年に発掘調査しました。その結果、縄文時代後期（約3800年前）を中心とした集落が地中より姿を現わし、土器や石器などが容量28ℓの箱に900箱も出土し、西日本でも最大級の縄文時代の遺跡であることが判りました。

今回の調査では、住居・墓そして貯蔵穴などの遺構が発見され、出土した多数の遺物から当時の生活



調査中の佃遺跡（平成3年調査）



柱穴の並ぶ住居跡

の様子が復元できるようになりました。

住居跡は、中央がわずかにくぼんだ円形のものが見つかりました。その他に、楕円形に点在する柱穴の並びも見つかりました。この柱穴列からは、円錐形の住居が想定されます。

遺跡の南側には小さな崖があり、崖下は低湿地でドングリ（イチイガシ）を蓄えたと考えられる貯蔵穴が多数発見されました。低湿地には歩きやすくす



クスノキ材の木道

るため、木道が敷かれていました。材質はクスノキで、丸木舟を転用しており、大変珍しいものです。秋に収穫されたドングリは水浸かりの状態^{もくどう}で冬を越し、秋までの食料として大切に保存されたのでしょう。ドングリの他にクリやオニグルミなどの木の実



貯蔵穴の断面

やナスやニワトコ、ゴボウのように中国など大陸起源の植物の種も出土しました。

食料としては、動物も捕っていたようで、シカやイノシシの骨が多数出土しました。その他に、タヌキやテン、カモやフクロウの骨も出土しています。またイルカ、クジラ、タイやスズキなど海の幸も見



貯蔵穴から出土したドングリと動物の骨



土 偶

つかりました。これらから4千年前の自然豊かな淡路島の様子が手に取るように見えてきそうです。

出土品の中には、食べ物を蓄える土器が多数出土していますが、その他に特徴的なものとして土偶や石剣^{せきけん}があります。これらは、自然と共に生きた縄文人達の祭りの時に使われたのでしょう。

佃遺跡の土偶の中で最も大きなものは、全身残っていれば25cmもある立体的なもので、西日本では最も大きい部類です。この他にへその回りに放射状に線を付けるものや、背中に縦方向に突き刺した文様(刺突文^{しとつもん})を付けたものがあります。土偶を使った祭りには不明な部分が多いのですが、縄文人の祈りが目に浮かんできそうです。

石剣・石刀類^{せきとう}はいずれも和歌山や徳島でとれる結晶片岩^{けつせいはんがん}が使われています。住居付近で発見された石剣は長さが52cmもあり、少し斜めに地面に突き刺しており、横には一抱えもある花崗岩^{かこうがん}の砥石^{ひとしか}が据え付けられていました。これは住居跡が集まるところにあることから、日常生活に関係した祭りが行われたのかも知れません。

縄文時代には、土器や石器の材料が他地域との交流で集落に持ち込まれることが良くあります。石鏃^{せきぞく}



石剣の突き刺さっている様子



佃ムラの様子（想像図）

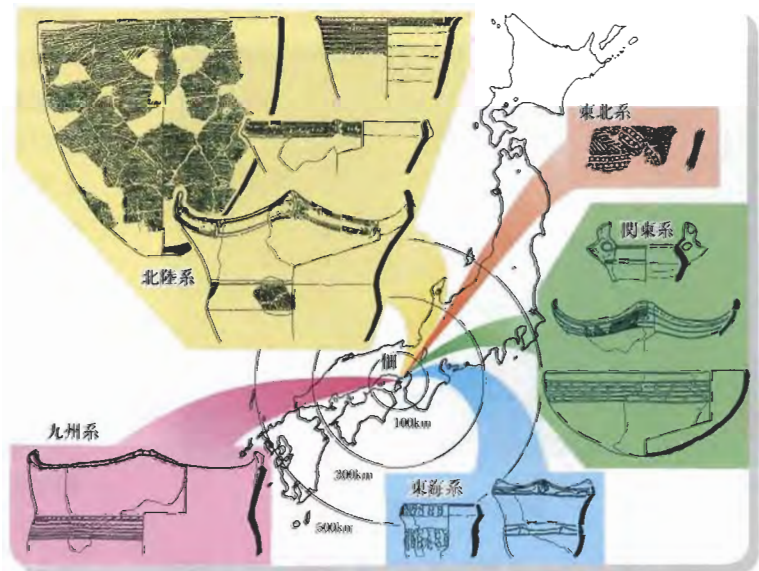
〈資料提供：東浦町〉

（やじり）や削器（けずる道具）の材料はサヌカイト（讃岐石）と呼ばれる安山岩で、地元淡路で採れるもののほか、大阪と奈良の府県境に位置する二上山や四国（讃岐）の金山から採れるものが知られています。佃遺跡では淡路産と金山産が大多数を占めており、小割りにされた金山産の石器材料が蓄えられていました。

出土した土器は、ほとんどこの集落で作られた土器で、粘土の中に石英や長石の粒が目立ちます。しかし土器をよく見ると、形や文様、粘土の中の鉱物や色などの違いにより明らかに佃遺跡以外で作られたものがあります。形や文様から東北・関東・東海・北陸・



淡路産の石材露頭（上）と
出土した金山産の石材（下）



佃遺跡から出土した各地の影響を受けた土器



現在の佃遺跡

九州地方とはほぼ全国からの影響を受けている土器が持ち込まれていることがわかりました。

以上のように、発掘調査から多くの成果を得ることができました。しかし今回発掘調査できたのは、遺跡全体のわずか8%程度でしかありません。佃遺跡の全容は、まだまだ謎につつまれています。

神戸淡路鳴門自動車道の東浦インターチェンジを入ってすぐのカーブの手前付近が発掘調査した場所です。



淡路インターチェンジ周辺の遺跡 〈写真提供：本州四国連絡橋公団〉

縄文のアクセサリー

まるやま遺跡（津名郡淡路町^{あわじ}）

まるやま遺跡は、神戸淡路鳴門自動車道の建設に伴う国道28号の改良工事に先立ち発掘調査した、縄文時代の遺跡です。

遺跡のある淡路町岩屋一帯では、石器の原材料となるサヌカイトが採集でき、縄文人たちは、この石を拾い集めて石器作りをしていました。下の写真は丸山地点の石器群で、約10,000年前（縄文時代草創期^{やう}）のものです。代表的なものは槍先の石器（有^{ぜつせんとうき}舌尖頭器^{やりさき}）で、木製の槍の先に取り付け、シカやイノシシをしとめていたのでしょう。そのほか、石鏃



約1万年前の石器群



約6千年前の垂飾リ

や削器も見つかっています（上段左端：5.3cm）。

上の写真は、假田地点から出土した約6,000年前（縄文時代早期末～前期前葉）の装飾品「垂飾リ」です。穴に紐を通し、ペンダントとして使っていたもので（左側長さ：7.0cm）、流紋岩質の結晶片岩^{りゅうもんがん}を素材としています。この2点は、元々は切り込みをもった輪状の「玦状耳飾り^{けつじょうみみかざ}」（現在のピアスのようなもの）であったと考えられますが、破損したためなのか再加工し、ペンダントに仕上げています。玦状耳飾りは、当時、北陸地方を中心に流行しており、近畿地方では、非常に珍しいものです。

弥生時代最大級の鉄鍬

塩壺西遺跡・塩壺遺跡（津名郡淡路町）

塩壺西遺跡は淡路インターチェンジの建設工事に伴い、塩壺遺跡は国道28号の改良工事に伴い発掘調査を行いました。両遺跡は隣接しており、いずれも弥生時代後期に属する遺跡で、一連の遺跡と考えられます。遺跡は、明石海峡に面した田ノ代海岸まで東西方向に延びる、標高が40～70mの狭い尾根の上にあります。

塩壺西遺跡の調査では、弥生時代後期の竪穴住居跡や土壇と呼ばれる大きな穴が見つかりました。竪穴住居跡は、4本柱のものと2本柱のものがあります。4本柱の住居は円形や正方形のものが多く、2本柱の住居は長方形の住居になるようです。これらの住居跡は、尾根が緩やかな所の南斜面に集中しており、尾根の中でも少し低い場所や海から見えにくい場所を選んでいます。土壌は、尾根の上や斜面、谷の中など様々な場所に作られています。また炭や焼け土がたくさん入った土壌も見つかっています。この遺跡は明石海峡から神戸・大阪方面が一望できる場所にあり、これらの土壌は対岸の村などと連絡



断層でずれた塩壺遺跡の住居跡



塩壺西遺跡の住居跡

をとるための狼煙跡の可能性が考えられます。

また、塩壺遺跡でも住居跡が見つかりました。ある住居跡の床面は、縦方向に大きくずれていました。このずれは、楠本断層の延長線上にあり、断層活動により生じたものと考えられます。

塩壺西遺跡からは、土器のほかに鉄製の鍬が3点出土しました。中でも一番大きいものは長さ約14cm、幅3.3cm、厚さ0.4cm、重さ約25gあり、弥生時代の鉄鍬としては全国でも最大級のものです。当時、鉄は貴重であり、これらの鉄鍬は大変な貴重品といえます。

塩壺西遺跡・塩壺遺跡は、倭国動乱期から古墳出現前という時期に属すること、交通の要所に立地していること及びその出土品や遺構から、明石海峡を望む狼煙台や見張り台としての性格をもった軍事的色彩の強い村である可能性があります。



鉄鍬



塩壺西遺跡からの眺望（写真右下部が調査中の塩壺西遺跡）

埋蔵文化財調査事務所の見学

私たちの事務所の仕事には、発掘調査で出てきた遺物（土器や石器等）を整理し、発掘現場で作った遺構（住居跡や建物跡等）の図面や写真と合わせて、遺跡の概要をまとめて本（報告書）にする作業があります。これらの作業を出土品整理作業と呼んでいます。

当事務所で実施している出土品整理作業について、本年も3つの小学校から見学がありました。



色々な土器や石器を身近に見学（荒田小）

◎平成10年4月23日（木）

神戸市立湊川多聞小学校 6年生51名+先生2名

◎平成10年5月14日（木）

神戸市立荒田小学校 6年生28名+先生1名

◎平成10年5月19日（火）

神戸市立池田小学校 6年生85名+先生5名

はじめに、施設の概要や文化財についての簡単な説明を行った後、10～13名のグループ分かれて4つのコーナーを巡りました。

最初は、遺跡から出てきた木製品や金属製品



金属製品の科学的処理（荒田小）

を保存するための科学的処理をしているコーナーで、一部の生徒達には、実際に木製品のバック作業や金属製品の錆落とし作業に参加してもらいました。

次のコーナーでは、教科書にでてくる土器や石器の実物を間近に観察するとともに、縄文土器の実物に触れました。

つづくコーナーでは、奈良時代の土器を実際にくっつけてもらいました。約10分間に、4つも破片をくっつける生徒達もいました。



科学的処理の終わった出土品（池田小）



木製品バック作業（池田小）



土器をくっつける（湊川多聞小）

最後に、科学的処理が完了した木製品や金属製品を見てもらいました。また当事務所が遺跡の上にあることや、自分達の小学校が、遺跡の上や遺跡の近くにあることなどを地図に色を塗りながら学習しました。

2時間程の短い時間でしたが、土器・石器・木製品そして金属製品を間近に見て、触れて、体験する中で、少しでも歴史や遺跡等に興味をもていただけたのではないかと思います。

これからの展示会開催のご案内



特別展 三万年の旅ーナウマンゾウから汽車土瓶までー

(会期) 平成10年10月3日(土)～11月23日(月)

(会場) 兵庫県立歴史博物館(姫路市本町68番地、☎0792-88-9011)

(内容) 旧石器時代から現代までの3万年間、兵庫県を舞台に繰り広げられた歴史と、様々な地域との交流を、兵庫県下出土品を中心に展示します。当事務所が調査した遺跡出土の遺物も多く出展しています。

(主催) 兵庫県立歴史博物館・兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所・朝日新聞社

パネル展「埋蔵文化財調査事務所10年の歩み

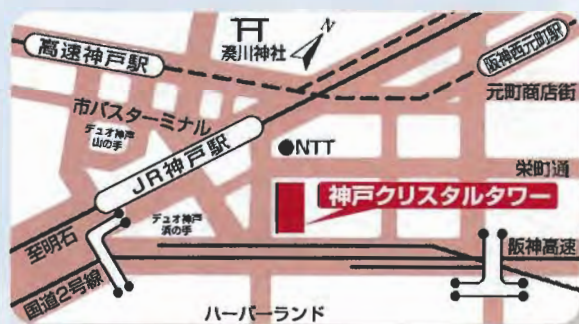
ー平成の発掘調査ー

(会期) 平成11年1月11日(月)～1月28日(木)

(会場) 神戸クリスタルタワー4階 県政広報コーナー
神戸市中央区東川崎町1-3-3 ☎078-360-8511

(内容) 埋蔵文化財調査事務所が発足して今年で10年目を迎えました。この間の事務所の歩みを、パネルで紹介します。

(主催) 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所



企画展「復興事業3年をふりかえってー阪神・

淡路大震災の復興と埋蔵文化財Ⅳー

(会期) 平成11年1月16日(土)～1月26日(火)

(会場) 神戸クリスタルタワー5階 県民ギャラリー
神戸市中央区東川崎町1-3-3 ☎078-360-8511

(内容) 平成7年1月17日未明に起こった兵庫県南部地震による大震災からの復興とそれに伴う埋蔵文化財発掘調査の様子を、出土品と写真を中心に展示します。

(主催) 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

企画展「災害と考古学(3)ー洪水災害を掘るー

(会期) 平成10年7月15日(水)～平成11年3月31日(水)

(会場) 兵庫県民会館2階 ふるさと資料室
神戸市中央区下山手通4-16-3

(会期) ー昨年・昨年と続いた「災害と考古学」シリーズの第3弾。洪水災害の痕跡のみられる阪神間の遺跡について紹介します。

企画展「播磨の遺跡(3)ー加古川を運ばれた土器ー

(会期) 平成10年7月16日(木)～平成11年6月30日(水)

(会場) 兵庫県立教育研修所 エントランスホール
加東郡社町山国字天狗山2006-107

(内容) 山陽自動車道建設に伴い発掘調査を行った加古川市の「白沢3・5号窯跡」の出土品のうち特に陶硯をとりあげ、播磨の須恵器生産とその流通について紹介します。



編集後記

明石海峡大橋が開通して、はや5か月が過ぎました。今号では、神戸淡路鳴門自動車道建設に伴って調査した遺跡のうち、淡路北部の主な遺跡をとりあげました。淡路島を訪れた時、古に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。